

学力向上プランにおける具体的な手立て

		課題	課題解決の方法
指導内容・指導方法の工夫・改善	国語	音読指導	○書いてあることを理解して正しく読むことができる。 ・国語の教材文（物語・詩・説明文など）を中心に、各教科の音読を毎日続ける。（音読カードの活用） ・昼の放送で音読の発表（児童の輪番制）を行う。 ・評価し合う場面をつくり、さらに意欲付けをしていく。
		表現指導	○自分の考えをわかりやすく話したり、人の話をしっかり聞いたりする力を育てる。 ・学習したことを自分なりに工夫して、わかりやすく表現する場を多く設ける。（授業・音楽祭・地域ふれあい集会・全校朝会・がんばった発表会・やまのこ発表会） ・「学び方ノート」を活用して、発表の仕方や学習のまとめ方（ノート作り）の参考にする。 ・俳句を週に1回書かせることで、豊かな感性と表現力を高める。（俳句ノート） ・朝のフリートークにより、話す力・聞く力を育てる。
		読書指導	○読書習慣を身に付け、豊かな心情を培う。 ○書いてある内容を正しく読み取る力を育てる。 ・毎週水曜日は朝読書、木曜日は読み聞かせ（児童の輪番制）を行う。読み聞かせは、前もって練習させておく。 ・毎学期ごとに各自で読書の目標冊数を決めて取り組ませる。（読書の記録に記入） ・各学期1回、全校で「読書わくわくタイム」を設け、読み聞かせやパネルシアター、ブックトーク等を行い、読書への関心を高める。 ・読書ノートにも積極的に取り組ませる。（書く力の育成）
		漢字指導 ローマ字指導	○漢字やローマ字を正しく書いたり、読んだりする力を育てる。 ・やまぐちっ子学習プリント等により習熟度を各自でチェックする。 ・漢字の定着のため、ミニテストを行ったり、復習させたりする。 ・全校一斉漢字テストを実施する。 ・パソコンのローマ字入力で定着を図る。
		作文指導	○自分の考えや思いを適切に、効果的に書く力を育てる。 ・毎日日記を書くことで、書くことに慣れさせる。表記の間違いはチェックし、やり直しをさせる。平日の日記は、学校であったことを書かせ、時には内容を決めて書かせる。 ・「作文タイム」を毎週月曜日の朝の時間に設定し、条件付き作文（字数、テーマ、表現方法）や新聞の要約に取り組む。
社会	地図の指導 歴史や文化・消費生活の様子についての指導	○基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。 ・やまぐちっ子学習プリント等で習熟度を各自でチェックする。 ・地図の活用や47都道府県の位置や名前などについてミニテストを行っていく。	
	活用力育成	○知識・技能を活用して、思考力や判断力を育てる。 ・地域の人材や施設の活用 ・身近な資料やコンピュータ等を活用しての学習	
算数	計算指導	○基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせる。 ・やまぐちっ子学習プリント等により習熟度を各自でチェックさせ、自分自身の苦手な問題には、一問でも多く取り組む。 ・プレ評価問題に取り組み、自分の苦手な問題を確認する。 ・各種プリント類から類題を抜き出し、問題量を多くこなすようにする。	
	応用力の育成	○思考力・判断力を育てる。 ・どのように考えたのかを、言葉や図、絵などで説明するように授業を仕組む。（書く力）	
理科	科学的な思考を促す。	○事象を比較したり、関係づけたり、条件に着目したり、推論したりしながら、追究したことを記述したり、発言したりできる。 ・比較して、差異点や共通点を見つける。 ・変化と関係する要因について考察する。 ・条件に着目して計画的に追究し、量的変化や時間的変化について考察する。 ・推論しながら追究し、規則性や相互関係について考察を表現する。	
	観察・実験の技能を身に付ける	○自然の事物・現象を観察し、実験を計画的に実施し、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うことができる。 ○過程や結果を的確に記録する。 ・観察・実験の過程や結果を的確に記録する。 ・学校環境を活用して、継続的な観察に取り組ませる。 ・問題解決に適した方法を工夫する。	
	自然現象についての知識・理解	○自然の事物・現象についての知識を身に付けることができる。また、身に付けた知識に日々新しい知識を付け加えたり、訂正したりできる。 ・各内容について、実感を伴って理解する。	

<p>研 修</p>	<p>校内研修の充実 ○自ら主体的に学ぶ学習態度の育成 （やまぐち学習支援プログラムの効果的な活用方法等） ○間接指導の充実 ○話し合い活動の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修により、研究テーマ・研究内容の共通理解を深める。 ・授業をとおして検証し、研究テーマの解明に迫る研修を進める。 ・学習の手順を提示し、主体的な学び方を定着させる。（一人学び、振り返り活動、話し合い活動） ・基礎基本の定着を図る学習活動を継続する。 ・やまぐち学習支援プログラムの効果的な活用をする。 ・一人一授業の実施により、研修の活性化を図る。（教師相互の授業評価の活用、授業後の検討会） ・学習の仕方を全校で統一し、継続して学べるようにしていく。
<p>家 庭 学 習</p>	<p>音読の定着 ○毎日の継続をとおして、音読や漢字の読み書きが上手になることを実感し、努力することの大切さに気付かせる。 授業とのつながりをもたせた家庭学習の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた音読の観点を明示した音読カードを活用する。カードはファイルに綴じていく。 ・反復学習が効果的な知識・技能には毎日取り組ませる。（漢字・計算） ・学年に応じた家庭学習の内容とし、上学年では予習的な学習にも自主的に取り組ませる。 ・「家庭学習のすすめ」や「家庭学習チェックカード」（年度当初配付、毎月第3週振り返り）を活用し、家庭と連絡をとりながら改善していく。
<p>学 習 ・ 生 活 環 境</p>	<p>学習訓練 よりよい生活環境作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律（姿勢・返事・ノートの使い方・発表の仕方・話し合いの進め方など）や学習の仕方（進め方）について共通理解して徹底する。 <p>[あいさつ・返事・靴揃え・姿勢・時間] ※小中連携重点事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校朝会や学級活動、朝の会、帰りの会等で、あいさつや返事の大切さ、具体的な仕方について指導する。 ・あいさつについてのめあてをもたせ、定期的に振り返りカードを活用して定着を図る。 <p>[掲示]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の意欲を高めるための掲示の工夫をする。 ・学習や生活に参考になる掲示物を掲示し、児童の関心を高める。 ・児童の掲示物には必ずコメントを入れ、児童の関心が深められるように工夫し、定期的に張り替えていく。 <p>[言葉遣い]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師に対して、あるいは児童相互で、自分の思いや考えを最後まではっきり言わせる。